

静岡県における安全安心で魅力ある県土づくりを目指した浸水対策の推進（防災・安全）

（１）事業の目的

近年、局所的な集中豪雨（ゲリラ豪雨）が頻発していることに加え、地球温暖化に伴う異常気象化が顕著に進行するなどの被害リスクの増大に対し、地域と連携・協力しつつ河川整備を進めることで、水害に強く、美しい地域づくりを行うとともに、安全安心で魅力ある県土づくりを推進する。

（２）指標

- 指標①：時間50mm規模の降雨による洪水に対する安全性が確保された河川の延長を899.5km（H24）から922.5km（H29）に延伸する。
- 指標②：近年発生した床上浸水の被害戸数から被災時と同程度の出水に対して、河川整備により床上浸水被害が解消された戸数を1,638戸（H24）から2,118戸（H29）に増加させる。
- 指標③④：水位情報周知河川等における監視体制を強化する。（テレメータ水位計設置河川88河川→96河川、監視カメラによる映像情報収集河川76河川→103河川）
- 指標⑤：第4次地震被害想定に対する地震・津波対策が必要な河川（48河川）のうち、対策済み河川を13河川（H29）に増加する。

指標の達成状況

- 指標①：計画期間中23kmの整備を予定していたが、実績は18.7kmと目標を達成できなかった。
- 指標②：計画期間中480戸の床上浸水被害の解消を予定していたが、実績は329戸と目標を達成できなかった。
- 指標③④：水位情報周知河川等におけるテレメータ水位計設置河川を96河川、監視カメラによる映像情報収集河川を103河川完了し、いずれも目標を達成した。
- 指標⑤：第4次地震被害想定を対象とした津波対策施設の整備河川を13河川完了し、目標を達成した。

指標①②の指標について、都市部の河川における用地補償等の難航により目標を達成できなかったが、着実に河川整備を推進しており、流域の治水安全度は向上している。

No.	定量的指標	当初現況値	最終目標値	最終実績値	達成率
①	要改修延長（1714.9km）のうち、一定の水準（50mm/h）の整備が完了している延長	899.5km	922.5km (23km)	918.2km (18.7km)	81.3%
②	平成10年度から平成24年度までの間に床上浸水を受けた家屋（2,720戸）のうち、被災時と同程度の出水に対して、河川整備により床上浸水被害が解消された家屋数	1,638戸	2,118戸 (480戸)	1,967戸 (329戸)	68.5%
③	水位情報周知河川等におけるテレメータ水位計設置河川	88河川	96河川 (11河川)	96河川 (11河川)	100.0%
④	水位情報周知河川等における監視カメラによる映像情報収集河川	76河川	103河川 (27河川)	103河川 (27河川)	100.0%
⑤	第4次地震被害想定を対象とした津波対策施設の整備河川	0河川	13河川	13河川	100.0%

(3) 指標に関連する実施事例

1-A1-3 萩間川広域河川改修事業

洪水時に氾濫の危険性が高い区間において、河川拡幅による流下能力の向上を図る河川整備により、流域の住民の安全性を確保する。

【過去の浸水被害】

平成 2年 9月30日 床上45戸、床下88戸
 平成16年10月 9日 床上 2戸、床下16戸
 令和元年10月12日 床上 1戸、床下 4戸



着手前



着手後(流下能力向上)

河道拡幅

1-A1-13 総合流域防災事業（情報基盤）

水位情報周知河川等において、水位計や監視カメラを設置し、収集した水位観測情報や監視カメラ映像をHP上で広く県民に周知することで、災害の未然防止と被害の軽減に役立てる。

水位計

二級河川伊東大川
 (伊東市宮川町地先)

監視カメラ

一級河川函南観音川
 (田方郡函南町間宮地先)



平時



令和元年10月12日(台風19号)

(4) 定量指標以外の効果発現状況

- ・着実に河川整備を推進したことで、風水害による死者数0を達成した。
- ・「多自然川づくり」による景観や生態系の配慮を行なうとともに、良好な河川空間を創出した。
- ・安全・安心な地域づくりを進めたことにより流域での住宅地の進展、工業団地の企業立地などに寄与した。

一級河川一雲済川



施工直後



施工後5ヶ月

一級河川境川



(5) 今後の方針と達成見込み

引き続き、地権者との合意形成に努めながら、後継の計画において各種事業の進捗を図り、安全安心で魅力ある県土づくりを目指した浸水対策を推進するものとする。